



七つの大罪

以前『週刊少年マガジン』に連載され、その後テレビアニメ化や映画化された漫画の題名で、その漫画を通してこの言葉を知っている児童もいます。以前児童から、「『七つの大罪』って知ってる？」と聞かれたことがあり、随分難しい言葉を知っているなどと思ったら、アニメのことでした。

「七つの大罪」はもともとキリスト教の言葉だと思っていましたが、4世紀のエジプトの修道士の著作に八つの「枢要罪」として現れたのが起源で、キリスト教の聖書の中では直接的には言及されていないそうです。八つの枢要罪とは、厳しさの順に、「暴食」、「色欲」、「強欲」、「憂鬱」、「憤怒」、「怠惰」、「虚飾」、「傲慢」のことで。その後6世紀後半には、キリスト教会の中で「虚飾」は「傲慢」へ、「憂鬱」は「怠惰」へとそれぞれまとめられ、さらに「嫉妬」が追加されて、「暴食」、「色欲」、「強欲」、「憤怒」、「怠惰」、「傲慢」、「嫉妬」という七つになったのだそうです。

私は以前、子供から質問を受けた際に、「色欲」を除いて「虚飾」を加え、①「暴食」②「強欲」③「憤怒」④「怠惰」⑤「虚飾」⑥「傲慢」⑦「嫉妬」の7つについて、『どれも、他人に迷惑をかけたり、いやな思いにさせたり、傷つけたり、自分の価値を下げたりすることになるので、気を付けなければならないこととして昔から言い伝えられている』と説明しました。すると、それを聞いていた子供はきょとんとした顔をした後、「そうじゃなくて・・・」と話し出し、「たいだ（怠惰）のキングがね・・・、しきよく（色欲）のゴウセルは・・・、ぼうしょく（暴食）のマーリンが・・・」等、アニメの中の、特に暴力的なシーンについて、雄弁に楽しそうに解説を始めました。そのとき、アニメから子供たちが受けるであろう影響の大きさを改めて感じさせられました。

最近のアニメは、子供向けでも深く複雑なテーマを基にしているものが多く、子供たちは、それをただ娯楽として無防備に視聴しています。大人向けの作品を子供たちが見ていることもあるのではないのでしょうか。子供たちに与える影響については、送り手である作者や制作者が責任を持って考えなければならないことすし、現在、「放送倫理・番組向上機構（BPO）」等、第三者機関による対応も行われていますが、基本的には、最終的に子供たちを守るのは各家庭です。

子供は「見たもの」を真似して成長していきます。飯事で料理を真似たり、親の口調や行動を真似たり、テレビで見たことをそのまま真似たりします。恐ろしいのは、その行為が「正しいか」「間違っているか」ということは、ほとんど関係ないということです。（「モデリング」と呼ばれる行動）それが知らず知らずのうちに人格形成に大きな影響を与えることもあります。

「ONE PIECE」「鬼滅の刃」「呪術廻戦」「進撃の巨人」等々、子供たちに向けて送り続けられる**ダーク・ファンタジー**（※注釈1）は枚挙に暇無く、止めることはできません。その作品の中には、大人の理論としての「感動」や「勇気」や「正義」が含まれており、子供にとっても情操教育等に有効だと考える方もいらっしゃると思いますが、前述の通り、モデリングを行う子供たちは、多くの場合、大人が考える深みや感動に触れることは難しく、見たままの映像や現象が深く印象に残ってしまいます。暴力的な映像を見て、その背景や経緯にまで思いを馳せて涙することはありません。そのシーンが当たり前のように感じられるようになるだけです。

アニメであっても、子供の年齢に応じて考えるべきですし、見てしまったり、見なければいけないかったり、或いはどうしても見せたいものについては、ただ見っ放しにせず、保護者がその内容について理解した上で、子供の発達段階に応じて適切な解説や助言を与えることが必要です。

子供だけでテレビやビデオ、インターネット等を見て過ごすこともあるでしょうが、その内容については、保護者はしっかりと把握しておくことが大切です。

大切な子供たちのために、ご家庭での子供たちの様子を、改めて注視していただきますようお願いいたします。

※注釈1：ダーク・ファンタジー（Dark fantasy）は、ファンタジー作品のジャンルの1つで、重苦しい雰囲気や悲劇的展開、残酷な描写や過激な性描写など、主人公をはじめとする登場人物にとって不条理な世界観などに重きを置いているものを指す。

（※裏面に別のお知らせがあります。）

..... 切り取り線

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと など

2021年11月19日（ ）年（ ）組 児童氏名

御礼

11月7日（日）に、郡山小学校校庭を会場にした少年野球の大会があり、私は会場校の校長として開会式と始球式に参加しました。

郡山小学校の「郡山チャレンジャー」も参加しており、他校の強豪チーム相手に、日頃の練習の成果を発揮して健闘しました。この日はその後予定があり最後まで応援できず残念でしたが、これからも折に触れて応援して参ります。

さて、試合が終わった翌週、校庭の雑草が少なくなっていることに気付きました。なんと、チャレンジャーの子供たちのお母さん方が、一生懸命に校庭整備をしてくださり、その中で、除草や落ち葉掃きをしてくださったのだそうです。

そう言えば、このようなチャレンジャーによる除草等の校庭整備は、昨日今日に始まったことではないと伺っていたことを思い出しました。

試合の時、ベンチに高齢の男性の写真が飾ってあり、どなたなのか伺うと、監督から、初代チャレンジャー監督の「千葉正司」さんだと紹介されました。既に亡くなっていますが、未だにチャレンジャーの象徴であり心の支えとして「総監督」と呼ばれており、試合の時には遺影をベンチに置いているのだそうです。千葉監督は、30年以上前、チャレンジャーを始めてすぐに校庭の除草作業を始めてくださったそうです。暫くの間は千葉監督が一人で除草作業を行っていたそうですが、チャレンジャーの保護者や子供たちも作業に加わるようになり、それ以来、練習の合間や試合前、さらに、練習時間を削ってまで、校庭整備や除草作業をしてくださってきたそうです。総監督が亡くなった後も遺志を受け継いだチャレンジャーの皆様が、折に触れて校庭整備をしてくださっているのです。

今年度はコロナ禍のため、例年行っていたPTAや地域による校庭除草作業を行うことができず、さらに、児童数が減少する中で、市内でも有数の広い校庭は、職員や児童による除草作業では追いつかない状態でした。今回の除草をはじめ、チャレンジャーの皆様のこれまでの校庭整備への協力に、改めて感謝申し上げます。

本校を活動拠点としているスポーツ少年団には、郡山チャレンジャー（野球）、郡山J・V・B（バレーボール）、郡山グラスホッパーズ（バスケットボール）の3団体があり、それぞれに郡山小学校の子供たちが練習に励んでいます。J・V・Bやグラスホッパーズの皆様にも、体育館の清掃や整理整頓にご協力いただいています。これからも試合などがあれば応援に駆けつけ、子供たちを激励し、保護者や指導者の皆様のご苦勞を労い、感謝を伝えて参ります。日頃からスポーツを通して本校の子供たちの健全育成に携わっていただき、ありがとうございます。応援しています！